

内容

* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(12)

12. Mさん宅訪問

* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(12)

12. Mさん宅訪問

今日はロサンゼルス郊外に住むMさんのお宅を訪問し、お話しを伺います。

Mさんはロサンゼルス精神保健局で長年ソーシャルワーカーとして勤務されていました。ヴィレッジと長年関係していた日本人であるMさんとヴィレッジセミナーの中で知り合いとなり、Mさんのご厚意によりセミナー終了後Mさん宅で経験談をお聞きする時間を頂く事ができました。

それではMさん宜しくお願いします。

アメリカの中で一番人口の多いのがカリフォルニア州で約 4000 万人、その中の最大都市がロサンゼルスで約 390 万人です。

これだけ多くの方がカリフォルニアに集まってきていますので、カリフォルニアには全部で 57 の郡があります。ですからカリフォルニアを国と思って、郡を県とだけと解り易いです。何故かという郡によって法律が違う場合があるからです。

それでは先ずヴィレッジの話から始めましょう。何故ヴィレッジが特別かという、非営利の NPO ですからいろいろなところからお金をもらう事ができます。私の勤めていたのはロサンゼルス郡精神保健局でしたから、色々なところからお金を集めることは出来ません。医療現場に寄付があった場合は親組織である精神保健局に納めなくてはなりません。ですから現場では郡や州で決めた予算に従って経営をすることになります。NPO であるヴィレッジの場合、色々なところから寄付を貰えるのとプログラムの作り方によっては郡や州、国からもお金がもらえます。ですからヴィレッジは考え方によっては色々な事ができる組織なのです。どのような活動をするにもお金は必要ですので、ヴィレッジは適切な組織なのです。

多分ヴィレッジの話の中でメディケアやメディカル(メディケイド)の話が出てきたと思いますが、メディケアやメディカルは健康保険です。メディケアは高齢者や障がい者、メディカルは生活困窮者を対象とした国の健康保険なのですがメディカルというのはカリフォルニアだけで、メディとカリフォルニアのカルを繋げてメディカルと呼ばれています。国からの補助が十分でない場合、郡や州がお金の追加をして支援します。この様に州が関与するので、メディケイドの事をここではメディカルと呼びます。私の場合は高齢なのでメディケアの対象になっています。例えば、未成年で障がい者になった場合は親を通して障害医療保険が支払われますのでメディケアですが、生活困窮者であればメディケイドも付いてくるわけです。大人になって障害となり申請した場合生活困窮者であれば、メディケアとメディケイドを共に受ける事ができます。

何故メディケイドがカリフォルニアでメディカルと言われるのかは、国からのメディケイドは支給額が低くカリフォルニアの医療水準に合いません。それで州が加算をして支給水準を上げているのです。



生活保護は医療保険とは全く別で、女性が一人で子育てをしている寡婦や多子の場合には金額が多くなりますし、男性一人暮らしの生活保護もあります。

人間高齢になれば医療にお金がかかるようになります。それで一般の高齢者もメディケアにより医療費が保護されていますし、私の場合もメディケアを使わせてもらっています。アメリカには日本の様な国民皆保険制度は有りませんので、民間の医療保険に入る必要があります。その医療保険の中には歯科治療は対象外というものもありますが、メディケアは歯科治療も対象ですので助かります。

例えば医療機関で入院が必要になった場合、確実に支払いの出来るメディケアとメディカルを共に受給している人を優先させるなどという話もあります。ヴィレッジの場合もメディケアとメディカル受給者を優先して対象者にしているかもしれませんね。(笑)

どの福祉施設でもお金が無いと何も出来ませんから、当然この様な事は考えられます。ソーシャルワーカーでも精神科医でも家庭があり家族を養っていかなくては行けませんので、お金は必要ですね。私は先程も言いましたがロサンゼルス郡の精神保健局に勤めていましたので、福祉施設からの請求書を郡に提出することもありましたが「何故この様な費用が掛かるのか？」と質問された事は良くあります。

(参加者) 一般の医療保険の場合、「長期に治療していると保険金を支払は無い」という事は有るのですか？

有ります。ですからアメリカの場合病気になっても治療を受けられないという国民が出てしまうのです。ですから今言われているオバマケアという国民皆保険制度が話題になっているのです。でも今ある民間の保険会社がダメージを受けるので色々反対をしているのですが、その言葉を信じている人たち特に共和党の人たちがオバマケアはいらないと言って反対しているような状況です。

アメリカは民主党と共和党の二大政党で大統領を常に争っていますが、何故大統領を陣営から出したいかというと大統領は最高裁判所の判事を指名する権利があります。大統領の任期は最低4年で最長8年しかできません。しかし最高裁判所の判事に任期は無く一生できます。憲法判断などは最高裁判所が行うので、判事の数多く握ることが政党にとって重要な意味を持つのです。その様なこともありアメリカ国民は自分の支持する政党に色々な形で寄付をする文化があります。

一般的には、民主党政権では貧困層に多くの支援が行くようになり、共和党政権では金持ちの権利が守られると言われていてます。全てがそうでは無いと思いますが、国民はどちらかの党に分かれるわけです。

ソーシャルワーカーがアメリカでどの様な活動をしているのか、についてお話ししたいと思います。大枠で言うと日本とは変わらないのですが、アメリカでは国会や州議会に多くのソーシャルワーカーが入っています。ソーシャルワーカーは一般の人とは違いグループとの繋がりがあり、人と繋がる技術を持っていますので議員がソーシャルワーカーを雇うのです。何故かというと政治家には地元民から色々苦情が寄せられます。その時ソーシャルワーカーを間に立てて苦情の聞き取りや解決にあたさせます。この様にソーシャルワーカーはかなり活発に動いています。また犯罪の現場でも判決で執行猶予になった場合、その執行猶予者の監督をする業務や、犯罪歴のある人の就労先を見つける業務などもあります。

私はソーシャルワーカーです。私は精神科医と同じように色々な場面の経験をしていますので、州の精神保健局からソーシャルワーカーのライセンスを貰うと、郡からの指名があれば強制入院などの指定も出来ます。日本でもソーシャルワーカーの方は多岐に活動が出来ると思いますので、「私はソーシャルワーカーだから…は出来ない」ではなく「私はソーシャルワーカーだから…が出来る」と思考を変えて、是非頑張ってください。アメリカでもソーシャルワーカーが、カウンセリングが出来るとなった時、心理職など周りから反対の意見は多くありました。私たちが行ってきたのは、新しく入ってきたクライアントの初回面接は私が行いデータを残します。すると担当の精神科医がデータを確認して病名を判断するわけです。この様に精神科医がデータから判断することを理解しているので、我々は症状を詳しく聞きデータ化しておくわけです。この様にお互いが影響し合い補完することで正しい判断に結び付けていました。

また我々はクライアントがどの様に生活していたかを知る必要があります。そのためには地域にどの様な

資源があり、どのような活動をしているかを知っておく必要があります。その様な情報も交えてクライアントの情報を聞き出しますので、精神科医だけの診療で得られるデータより我々のカウンセリングによってより有益な症状を聞き出す事ができるのです。

次は、デイケアとドロップインセンターは違うという事を自覚して欲しいと思います。私は、デイケアは道場だと思うのです。道場というのは柔道の道場などのように「何かをする」「技術を学ぶ」所でしょう。だからデイケアとは、そこに行って何かを学ぶことをしなければいけないのです。ドロップインセンターは時間が有るときに、ただそこに来て、話をしたりして時間を過ごすところなのです。何をしてもしなくても良いところなので、仲間を作れば良いところなのです。デイケアは、そこに行き何か知識を得なければなりません。その知識とは何か、という地域で暮らすための技能や技術を学ぶことです。そのためデイケアの職員は利用者と常に能動的な接点を持つ必要があります。能動的接点とは、先ず利用者が来所したら名前を呼び挨拶をする事、皆さんも他の人が名前を憶えていて、名前と呼ばれたら嬉しいでしょう。またいつも遅れてくる人が、正しい時間に来たら「今日は早く来てくれたのね」と言われたら嬉しいですね。その人の長所を生かし褒めることで、親密になる事ができます。私たちはカウンセリングをするとき、その人の欠けているところを多く導き出し正しい診断に結び付けるため欠点は多く知ることになりますが、実際の現場では長所を引き出し、関係性を深め、技術や技能を学んでいただくことが重要なのです。

例えば統合失調症の人で「私は何も出来ない」と思っている人に、その人の欠点を知った上で長所を見つけ「この様な事が出来るでしょう」と言ってあげるのがソーシャルワーカーや心理職の役割なのです。それを能動的にやって欲しいと思います。グループの中に黙って座っている人がいたら隣に座って話をしあげたり、話を聞いてあげたりすることです。多分皆さんも経験していると思いますが、相手は話をしたがらないでしょう。例えば私が初めて会ったあなたたちに組織の事を知りたくて色々質問したら、貴方たちは引きますよね。それと同じです。ですから最初から個人的なことを質問するのではなく、「今日は気分が良いですか？」という様なことから始めると良いでしょう。これは非常に大切なことです。それから「今日は時間内に来てくれてありがとう」など、その人の行動を認めてあげることです。結果で考えると、出来る人とできない人が出てくるので、話題を作るチャンスが減ることになります。ですから努力をしている過程を認めてあげることが重要で、もう少し頑張ろうという気持ちを引き出すことです。我々でもそうですよね。その様にメンバーの人には接触して欲しいです。

デイケアに 3 日 来なかったら、こちらからアクセスするべきです。ほっておかないという事です。この様な事をする事によってメンバーの人は活動的になります。

積極的にクライアントに近づいていくことが大切なことです。

例えば個人的なことで「今日は何を食べたの？」と聞いても話し合いになるでしょう。「それは誰が作ったの、お母さんが作ったの？」と話を続けられます。「1 人で住んでいるから自分でやっています」との答えなら、自然に住居情報を聞くことも出来ます。個別質問では自分の情報を出したくない人でも自然と聞く事ができます。この様に先ほども言いましたが、こちらから積極的にクライアントに入っていくとクライアント側からこちらに入ってくることは殆どありません。ある程度関係ができていけばクライアント側からのアクセスもあります。関係構築段階ではこちら側が積極的になることが重要です。そして特に初見の時は、個人的なことに触れず一般的なこと、クライアントが答えやすいことから、話に入っていくことが重要です。

この様な事を考えながらクライアントに近づいて欲しい。

最初にしなくてはいけないことは、クライアントの心を掴むことです。日本での説明では、この様な言葉で良いのですが、「心を掴む」とはどのような事なのでしょう。私は私なりに考えますが、貴方たちがどの様に考えるかは分かりません。でも人から聞いた話は直ぐ忘れませんが、自分で考えたことは忘れません。ですから貴方たちが自分で壁を乗り越えようとして努力し、乗り越えれば自分のものになります。

日本では控えめにすることを美德と考えますので、自分の事はあまり出さないようにすると思います。でもソーシャルワーカーという仕事は控えめではいけないのです。何故かという殆どのクライアントが控えめだ

からです。そのクライアントのためにソーシャルワーカーは積極的に話をしなくてはならないのです。そしてクライアントの生き方を指導するのがソーシャルワーカーなのですから、この事を心において活動して欲しいです。常に積極的に発言することが非常に大切な事なのです。

私が日本に行って講演する時は「自分の意見を持つことが大切です」といつも言います。自分の意見を持たずに他人の意見に左右されることは、ソーシャルワーカーの役割に反することです。ソーシャルワーカーという職業は、クライアントのために常に能動的に考えなくてはならないのです。「今クライアントは何が必要なのでしょう？」という質問に対して、「解りませんからクライアントに聴いてみましょう」とはいけません。我々はクライアントに会うたびに「この人には今何が必要なのか」という事を何時も考えなくてはならないのです。学校を卒業したからソーシャルワーカーになった。



というだけではダメで、常に勉強をし続けなくてはなりません。現場で働くようになったら、それが第 2 の教育の現場だと思ってください。そして常に能動的に活動していくという事を身に付けて行ってください。

大人になったら、自分は自分で躰をしていかななくてはなりません。周りは誰もしてくれませんので、成長するためには自分でするしかないのです。また物事を行う時は、ちゃんと考えて戦略的に行うことが重要です。場当たりの行くと失敗する可能性が高いです。戦略的に行えば成功率は格段に高くなります。ソーシャルワーカーは自分のためではなく、クライアントのために発言したり、色々なところに出向いて交渉したりするのだから、戦略を立てて行動することがとても重要な事なのです。この相手とはどのような方法で話を進めたら良いのか、という事を十分に考えてから話を始めると物事を上手く進める事ができるでしょう。

皆さんは十分に現場を経験していると思うので基礎的な話で申し訳ありませんが、是非もう一度クライアントのためにこの様な事を考えてみてください。

(参加者) ヴィレッジの利用者が何か補助金をもらって生活していると聞いたのですが、何ですか？

障がい者に対する SSI という給付金です。低所得の 65 歳以上の高齢者か障害のある人への給付金制度で「生活補助金 Supplemental Security Income」と言われています。SSI を受給すると、先ほど話が出たメディケアやメディケイドは付いてきます。日本で言うと障害年金や生活保護費にあたります。SSI は単身者で月 800 ドル程度、カップルで月 1300 ドル程度となっています。

アメリカでは国の権限と州の権限が明確化されており、精神保健局の設置は州法で定められています。ですからカリフォルニア州は精神保健局がありますが、無い州が有るかもしれません。基本的に国の権限は軍隊を持つ事と外交をするという事で、それ以外は殆どが州の権限になります。ですから犯罪に関することや、交通ルールなども州の法律により決まるので州をまたぐと違う場合があります。運転免許も州で決められているので、基本的には他州に引っ越した場合、免許の再取得が必要になります。しかし旅行など短期の場合は問題ありません。

面白い話ですが、州の権限を巡って州が国を提訴することが有ります。この位、州と国の権限は明確に分けられています。またアメリカは訴訟の国とよく言われますが、訴えることや訴訟が多い事で法律が具体化していると言えます。

長い時間、色々お話いただき有り難うございました。

—編集後記— 12 回にわたり 2013 年ヴィレッジセミナー報告をさせて頂きましたが、今回が最後となります。今回の M さん宅では、アメリカ独特のシステムやセミナーでの疑問点などを丁寧にご説明頂きました。またソーシャルワーカーの基本理念も再認識させて頂き大変感謝しております。

話は変わりますが、やどかりの里が 1995 年ヴィレッジセミナーを開始、2002 年に協会が引き継ぎ 2013 年まで 19 年間大変お世話になりました。最近知りましたが 2021-2 年頃ヴィレッジ ISA は消滅しました。コロナ禍が理由かもしれませんが詳細は不明です。大変残念なことです。協会での参加者だけでも延べ 200 名程になりますので、是非ヴィレッジの理念を残していただくと幸いです。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会